

【2026 年 7 月 31 日】

送付枚数 本票含め 3 枚

〒753-8511 山口市吉田1677-1
TEL : 083-933-5007
FAX : 083-933-5013
E-mail : sh011@yamaguchi-u.ac.jp

報道機関 各位

公開シンポジウム「グローバル探究のカリキュラム・デザイン ～質の高い探究的な学びとグローバル教育の接点を探る～」 の開催について

大暑の候、貴社におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、山口大学教育学部にて 2026 年度第 33 回日本グローバル教育学会全国研究大会を開催いたします。なお、大会の事務局は、教育学部教育学講座（教育方法・カリキュラム学研究室）の山下大喜講師が担当いたします。今年度の年次大会は、グローバル教育のカリキュラム研究をテーマに、会員による自由研究発表とともに、公開シンポジウム「グローバル探究のカリキュラム・デザイン ～質の高い探究的な学びとグローバル教育の接点を探る～」を下記のとおり実施いたします。

公開シンポジウムでは、山口県内におけるグローバルな視点に立った教育の取り組みを、中等教育学校、高等専門学校、大学それぞれの立場からご報告いただき、次期学習指導要領を見据えながら、参加者の皆様と「質の高い探究的な学び」の可能性を探ります。登壇者の報告を通じて、山口県におけるグローバル教育の実践を知っていただける貴重な機会となっております。

つきましては、本シンポジウムの取材および報道等について、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。なお、当日の取材を希望される場合は、8 月 21 日（金）までに下記お問い合わせ先へご連絡くださいますようお願いいたします。

記

- 1.日時：2026 年 8 月 29 日（土）14：10～16：40
- 2.会場：山口大学教育学部（1 階）11 番教室
- 3.対象：学校教育関係者、大学院生、大学生等
- 4.概要：別紙参照
- 5.申込：不要（公開シンポジウムのみは参加費不要）

●お問い合わせ先

2026 年度第 33 回日本グローバル教育学会全国研究
大会事務局
担当：山口大学教育学部教育学講座 講師
山下 大喜
E-mail: global2026.yamaguchi@gmail.com

発信者 国立大学法人山口大学総務部
総務課広報室
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
TEL 083-933-5007
FAX 083-933-5013
E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

シンポジウムの概要：

シンポジウムテーマ：

グローバル探究のカリキュラム・デザイン ～質の高い探究的な学びとグローバル教育の接点を探る～

・趣旨：

2025 年 9 月に教育課程企画特別部会から「論点整理」が示され、その柱の一つとして「質の高い探究的な学び」を実現することの重要性が説かれた。その実現のためには「学びをデザインする高度専門職としての教師」の姿も不可欠となる。次期学習指導要領の改訂を目の前にして、各学校におけるカリキュラム・デザインを通じた「探究的な学び」の具体化とそれを支える教師の力量形成がカギとなるなかで、グローバル教育はどのような役割を果たせるだろうか。

そこで、本シンポジウムでは、山口県におけるグローバル教育の事例を取りあげ、探究的な学びとグローバル教育の接点を模索した実践を各校種の立場からご報告いただく。第一報告（磯部賢治）では、六年一貫の中等教育カリキュラムの意義をふまえながら、国際的な視座と地域的な視座の往還を取り入れた探究型学習の実践について論じる。第二報告（畑村学）では、KOSEN として注目を集める高専教育の特徴をふまえながら、宇部工業高等専門学校における国際交流を通じたキャンパス・グローバル化の実践について論じる。第三報告（森朋也）では、教員養成段階におけるグローバル教育の意義を再確認したうえで、コースの中核にしている海外教育研修の実践とその省察について論じる。指定討論（田本正一）および総合討論では、カリキュラム・デザインの視点から各実践を総括し、質の高い探究的な学びとグローバル教育の接点をフロアとも考察する場としていきたい。

・登壇者：※敬称略

【ケース 1】：磯部賢治（下関中等教育学校）

「地域・国内・世界を接続するグローバル探究の段階的展開——下関での留学生連携からカナダ研修へ至る対話的な連続的プロセス——」

【ケース 2】：畑村学（宇部工業高等専門学校）

「海外協定校研修生受入による宇部高専キャンパスのグローバル化」

【ケース 3】：森朋也（山口大学教育学部）

「教員養成課程における海外での授業実践とその省察 —ベトナム・ラオスでの海外研修を事例に」

【指定討論】：田本正一（山口大学教育学部）

【総合司会】：山下大喜（山口大学教育学部）

・タイムテーブル：

14：10～14：20 趣旨説明：10 分

14：20～15：40 各報告：80 分（25 分×3 本＋バッファー 5 分）

15：40～15：50 休憩：10 分

15：50～16：00 指定討論：10 分

16：00～16：40 総合討論：40 分

グローバル探究のカリキュラム・デザイン

—質の高い探究的な学びとグローバル教育の接点を探る—

2025年9月に教育課程企画特別部会から「論点整理」が示され、その柱の一つとして「質の高い探究的な学び」を実現することの重要性が説かれた。その実現のためには「学びをデザインする高度専門職としての教師」の姿も不可欠となる。次期学習指導要領の改訂を目の前にして、各学校におけるカリキュラム・デザインを通じた「探究的な学び」の具体化とそれを支える教師の力量形成がカギとなるなかで、グローバル教育はどのような役割を果たせるだろうか。そこで、本シンポジウムでは、山口県におけるグローバル教育の事例を取りあげ、探究的な学びとグローバル教育の接点を参加者とともに深く考察し、見通しをもてる機会にしたい。

日 時：2026年8月29日（土）14:10~16:40

場 所：山口大学教育学部 11番教室

プログラム

○ケース1：磯部賢治（下関中等教育学校）

地域・国内・世界を接続するグローバル探究の段階的展開

○ケース2：畑村学（宇部工業高等専門学校）

海外協定校研修生受入による宇部高専キャンパスのグローバル化

○ケース3：森朋也（山口大学教育学部）

教員養成課程における海外での授業実践とその省察

○指定討論：田本正一（山口大学教育学部）

○総合司会：山下大喜（山口大学教育学部）

◆申込：不要・参加費無料

◆対象：学校教育関係者・大学院生・大学生 等

グローバル教育に関心がある高校生・高専生・中学生も広く歓迎します

